

## 働き方は変わるのか？

この執筆依頼を受けた4月は、世の中が新型コロナウイルスへの対応を様々な場面において求められ、また加速しているまさにその時期でした。もちろん寒地土木研究所にあっても、その対応として、在宅勤務を進め公共機関等を利用した通勤時における人との接触や執務室における職員間での接触機会を削減するなど、感染リスクを下げるべく取り組みを始めているところでした。また、つくば市にある土木研究所との会議においても、これまで出張により一堂に会して行われたものを今回はテレビ会議で実施するなど、急激に業務の進め方を変化させてきています。さらに4月末には、具体的な数値目標を掲げることにより在宅勤務等の取組みを加速させることとなりました。こうしたなか、取組みの当事者である職員の間では戸惑いが広がったことと思います。例えば、そもそもそのようなことが出来るのかといった漠然としたものから、屋外をフィールドとする研究の場合どのように考えるのか、人と会うことで成り立っていた仕事の場合どうするのか、決裁はどうするのか、など業務上のもの、あるいは、通信環境を含めたパソコン等の環境整備は、など道具の問題等々、大小様々なものがあったことでしょう。我が身を振り返れば、この4月に初めての寒地土木研究所勤務ということもあって業務自体がどうこうというより、未だwindows7のパソコンしかなく、インターネット接続へのリスクがある状況で在宅勤務をする場合、いったい何が出来るだろうと考えたものです。当面、新型コロナへの対策として、在宅勤務を始めとした各種の取組みは続くものと思います。しかし、これらを通じて変化した業務の進め方から新たな発見があり、良い意味で働き方の変化に繋げることが出来れば、「災いを転じて福となす」ことが出来るのではないのでしょうか。いずれにしても、今回の新型コロナ騒動が、この「サロン」が掲載される頃には収束していることを願ってやみません。

(水利基盤チーム上席研究員 松田 俊之)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。